周 易 傳 義 補 疑

上十四からな一及しはまる古代を見 力でなることであるのかあたれ となるれ者一つて来る大松 一声でいる二分一名の私一年の世 おみしいれるないは れ付明投生ある存在者は くさせている おうてさしだられ 至子化中秋之一礼神写松之 大學於一次可乳中工作各名 福を在いるまおこかを存む それはいれるはることあれる 古孝子九中門至工便力其 祖大呼いたる九十六十五十五十五十 七年代金子がない十十十五十九 先世子自己中の也為因之 和我曾在日本的世界也多多的易傳義補疑卷之九 氏曰緊醉停中言聖人緊静者六皆指文王周公卦文 凡例如論先聖作易之由則見於包張氏仰親俯察及 野部上傳的書名は文在本中二年必治之名子於学易文化りか文五四 辭而言若緊辭上下傳則是孔子統論 紅之卦文大體 經之大體儿例故无經可附而自分上下云〇雙湖胡 即今經文此篇乃孔子所述紫辭之傳也以其通論 本義緊聯本謂文王問公所作之解緊于卦爻之下者 -後學冊陽姜 寶慕註-門人

是三年子在京都是由是古面主馬一古山生民在天成果在地成形變化見以及為其一年子在京都是不是由是古面主馬一古山生民在天成果在地成形變化見以及在京都是一次在京都與一個大學化見以及是一個大學的學術學的學術學的學 朝子 好好 多必不可以必然如此是 サデカガラを入る ころなって 九世八十五代家城在日三年中五 ハンかこか 天田、ロンケスを石を石るととと他のちんな はたいえまさる うちかけっし 新から人はなる ひとなっていなっち 至了我此即是此一下,即民也 第一分之九日安智,写三花八日 存於 光子 七天子祥 分子你死 第八字八字写 人及化中的出行 按其三分子 北州人公宣大司 |天尊地早乾坤定矣平高以陳貴賤位矣動門静除有常 之故鬼神之情状皆搜扶无隐其稱大傳則因太史公 所稱以別於其師楊何等所者行世易傳云爾 行之數與夫卦文之剛柔象數之變化三極之道幽明 之引名也甲高者天地萬物上下之位貴賤者易中引 易有太極及河圖浴書等章如論用易之法則見於大 大表天地者陰陽形氣之實體乾坤者易中純陰純陽

おおる大学的名字作者的可 日人多人化中州位則以常的中本 粉をすつるしまるおちあか ないちゃわりょからあずらる あ 学のうまむのあるとかゆれ 付 見りるがたべ 臣是九四十年之前却心代生子 不用為不利理以一個上版五美一 当日二年復見不至五程次以 いる名は一日不見一面一不上 こままなな方は万のみじらに 女師別名等你心住女はきまれ ランタン近 成分子あ河の今日だ 東心なかまあるる水の見 おおうすするえ ちょうなんな 我一就沒有一个意威以常好正 てるで不易物数は 曰方以類聚物以群分曰在天成象在地成形此未盡 此生生所以不窮天地所以長久而不己也於後化 獨形者山川動植之屬變化者易中者策卦文陰變為 既盡者易之書曰天尊地甲曰甲高以陳曰動静有常 誠務易有二有未盡之易有既盡之易未盡者易之理 陽陽化為除者也此言聖人作易因除陽之實體為卦 文上下之位也動者防之常靜者除之常剛柔者易中 分而古凶者易中卦交占决之辭也象者日月呈辰之 好久陰陽之稱也方謂事情所向言事物善惡各以類

文艺 放工好一位中人及由 七八八五三十八四日前五八八 此中以被問言三季心見一為一 茶田田の方のあれ、数さる私口 明至一九三四分为名中。存 口色中間至主共子信奉行 方切しはそれ方此外必わた形然 真文やする此る本美の内代芸 不一代的如此及及好院在今日か 内山水水五年期 医狗川伊加名 する中北を一方以名 記を存 てやゆこなうているありはまる 自由身体別手信室和保护司程左 我不写一年であれたならなると 一点多多然全在本来四彩京子 方手是不能回避分割而溶的路 是故剛柔相摩八卦相激大是农之石不亦已至下始也位六位也 周易傳義補疑以外於 -----本義此言易卦之變化也六十四卦之初剛柔而畫而 地之成象成形而見六十 四卦之變化此既盡之易也 之易也易之理也伏義仰觀俯察因天地而得乾坤之 象因天地之里島而識貴贱之位因天地之動静而定 易之書也〇魏華父曰不言高甲而曰平為者卦畫自 巴兩相摩而為四四相摩而為八八相遇而為六十四 剛柔之體因天地之間類聚群分而明吉凶之故因天 的按摩與邊即上文所謂變化也〇丘氏行可曰此前

天松被将来 秦元子 两面的子本春夜盛气一 化五部设出及化下喝一次之以雷霆潤之以風雨日月進行一寒一暑熟三下尚好为天作走放之以雷霆潤之以風雨日月進行一寒一暑 章要子子多思書·體也此以摩盗鼓潤運行言是流行之陰陽變易乙用 見変化かるかできれば成男中道成女では文の中から世子なのかろろろれてあれる一切死したのし見変化かるかできれていましては一成男中道成女では文の中から世子をのかろろれて気はであるますけるかは 是看下海代之面一大名的电子方文不是面的人方文不是面景的中国是大多中国这个人人的文文的大大孩生相中有为这一情的人的人的人的人的人的人的人的人的人们是一个人的人们是一个人的人们是一个人的人们是一个人的人们 《多歌不至芳者太上 之物故不言及然雷霆風雨亦出山澤者也其實亦無 行がでくれる 留かたがの供なさん上代こと 多天下子季原是一本我此發化之成象者○孔朝這云此直云震點離坎 山門ないお直大下更小十方 ・人はおえ一方からの己本年 奏為官的為前息 此變化之成形者明易之見於實體者與上文相發明天整色也 近生こと生なるの女女を西 のどけまではけるところの方は我用たいというというないのできるかあるかけりいの 以乾坤貴賤剛柔吉凶發化言是對待之陰陽交易之 不云乾坤艮兄者乾坤上下備言矣艮兒非談動運行 也 原外の刑金やおける果名本節を女化しめれ 子联口久男子花あれる | 前務しはあし

中不動的品來此場所各面 五年は五年的中本内かえ 一大関西にこのはありとなるかしの松大作うを限られず、在了子子自己不知 相次五天十一末了江口中四四五 京水水大知此作的神更多的一之易又如此已在一天他只传为京子的爱之 白豆是一年天便不可吃品」「一十十十十年」 おおれてかず十七、は事 我作れれ及とうたみ中で多る 九年大家以存於近十九十八 多表は名外門門はてかれて 上京なられた対称やきれた はらか男のはる成在子子 我でやらには化のおあっか 丁 少分字的とお初れ宣出去看如 からは、にくらのは 罪差之在在五年一覧以易知坤以簡能 无象之好的主及不完的女 本義知循主也乾主始物而坤作成之永上文男女而 ·言乾坤之理盖凡物之屬乎陰陽者莫不如此〇按乾 坤雖就卦畫上說來然亦據理而論其職司之所分屬 寒暑發化而成果自有男女發化而成形此一即畫後 也〇雲峰胡氏曰六十四卦之中自有雷定風雨日月 按本義即乾所知能始物而無所難說未登徹今取造

看我的大部立我了通外有功則可大可久則賢人之感可大則賢人之業 治ステラかっけい方沙に水正 向的野村者了你的人 以此也是本体的证式不 出死致強指於推展如我為如 古人物却有光台工作修該社任 前二十六日でかりぬころんか ゆていれるならのきれなる! はよいあかる にかぶゆえそへ化 チカサガルが、用きせずすれがカル の万年分子告からればあれば 犯形止物質 的数的形物是 名代说此道说,割四大分太人 為四人与此為知化打好人与此五 人不知ら ぞれがら不停す 不安なの以下 中ガラ九が元之方とない、日男野後衛徒をは失 、簡能故作成萬物不以為祭也 本義人之所為如乾之易則其心明白而人易知如坤 夢術氏之說補於左潘氏曰乾主大始坤作成物此乾 坤之職司也便為乾者用力之難為坤者用力之繁則 乾坤亦劳矣惟乾以易知故主大始不以爲難惟坤以 之簡則其事要約而人易從易知則以之同心者多故 可久有功則兼於外故可大德謂得於己者業謂成於 有親易從則與之協力者聚故有功有親則一於内故 9

易者以故水下月五学百

様人、あるちゃる不必有 年1月子方がりまべらからた! おっかかそれがしなる英面 传播与BB大村·北十名里山 かりめょう きんさなのはガニそてくいろ 続やし 外ロる 花や所にもかんかはおなると 先天女 化二四天二八天 井的这代的主義的代倉主 不ててごする あいてべしないと 京市只是上六小四的出学人 をすらかなれなれいおおしり 發一情与犯常权直的时代也 華原作日政和并知是 就福七古道 とこう人がある人のと大 以我とき丁星がかるおおお子とか 子白出作事以為我,恨在人力 心明白感 焦冤待名化至了至 れきていてるだとゆかみの大 うりはたずは死世比於大社 人一少十二十十十十一十一十十十 易簡而天下之理得矣天下之理得而成位乎其中矣 按本義成位謂成人之位說未妥盖天位乎上地位乎 事者上言乾坤之他不同此言人法乾坤之道至此則 是也〇按前日至此可以為賢此日至此則聖人之能 才矣如此說方是若以為成人之位則亦可謂成天之 位成地之位耶故位字但作虚活字看可也本義云至 下而人成位乎天地之中是真能與天地並立而爲三 可以為就其人也然人皆の文文五也以但是全人心差于九日初的中文以为文在的上去此美可以為 此則體道之極功聖人之能事可以與天地參矣此則 事盖謂聖人之能事亦賢人所可至也

出してはならなしてるる かまうてかじる ろかから おいらんにありなりだして 其の名中しだら人力をまた からなのかながってやかみり 真言言思為好事分而明吉凶之故見天地之成象成形而知變化之由 オラあゆこだっちないな らてやそう 全男ナモラ かあるをなれ 人名 歩きれ あそてやえれてた 八年のみかはかきれてから」で 変にある人でそろいそすか 見る書名しまきと見んか はまで食事作るしまなり ザラスもみあせてならばし せるえからしれそてれています 大切りますとなんちあいと しだや品次がる近其子都以下 易天尊地甲甲高動前類聚样分成象皮形是皆天地 見於天地而人兼體之也〇按此章專論伏義先天之 采而錯摩乎乾之剛一 剛一柔相推相盗鼓之以雷霆 甲髙而識貴贱之位見動静而定刚柔之體見類聚群 本義此章以造化之質明作經之理又言乾坤之理分 而為震潤之以風雨而為其次日月運行夫寒暑而為 於是畫卦以象之以乾之剛而錯摩乎坤之柔以坤之 自然之法象伏義仰觀術察見天地而得乾坤之象見 右第一章 THE STATE OF THE S

神心力 うた代子かからかのを作る が人である人方を以べし住 所なおも中たのかしたまれ やし中七女位出てかし中年 モハだらいなられおしゅや 一方で あなっててしないた 馬多佛報便就以此卷 大自生其主大好也初不見其难坤以簡能惟翁關而 柔者為長女為中女為少女凡成男成女之類無一不 乾坤之功可謂至溥而無際矣然乾以易知惟專直而 坎離以至得乾之剛者為長男馬甲男為少男得坤之 易知人之行事如坤之前則要約易從易知則同心者 際其徳則至要而不繁者也人之心如乾之易則明白! 廣泊生其作成物也初不以為繁盖其功雖至專而無 然故有親易從則協力者聚故有功有親則德不孤而! 在於計畫之中若此者皆由乾主始物而坤作成之也 可外所以爲賢人之德有功則業日廣而可大所以爲 耳

我大龙北的美女子李拉一朝南哥城市成成儿民 学在教艺的的是聖人設計觀象繁辯馬而明古凶 文学る主 子子もを可引しるお教化 めて中人えるらてないる 存的人名格名以英山下 上月しなるばれるスガラ 上うしなるしなかのきる 四年别出一至本代五十九 中は七道二大三万十七五八 を上来をかまむむしいま 读卦全古 中矣謂天位乎上地位乎下而我亦能成位乎天地之 與乾坤同體世人往往傾險使人不可近往往勞擾使 天之學其功用至於如此盖人心本自明白正大本自 中至是其能與天地並立而為三才矣君子從事於先 也故曰易簡而天下之理得天下之理得而成位乎其 **賢人之業由可久進而為日新之德雖與乾道同其久** 可也由可大積而為富有之業雖與坤紀合其無殿可 殊可惜也 人不可從以致不可持久不可充柘卒自為小人之歸 下 1

関立なるるは 两场方旗之两有其意的明奈相推而生變化是在天东了仍如在是不 於方京以張卦次中代五百<u>成</u> 米住男子八白金不西益 でもきた自然を前に延ば二 ないるは下げる。みな十九五 けれたのでまちゃって あかまかろと古れとある 是立意用多世即我有主都然 铁黄鹿家王马首不达对三十二十十十五 節力 话上日报去仍是公元为五五 今かで以上 大山下日か田之 るけれ 元方の四五郎守上八 打合ななり、我がある多 有诸其住者常在自己的 本義言卦爻陰陽送相推盡而陰或變陽陽或化陰聖 人所以觀象而繫辭衆人所以因者而求卦者也〇胡 本義衆者物之似也此言聖人作易觀針文之象而繁 乾之不九為異由是而交於六二九二六三九三成次 異之云乾之初九交於坤之初六為震坤之初六交於 凶然懼觀之者其智不足以知此於是緊之卦辭又緊 以解也〇朱震氏日聖人設卦本以觀象不言而見吉 之爻辭以明告之非得已也為觀象而未知者設也 成離成民成兒是相推而生變化也○雲峰日易之道!

上下面是解说外经茶的见处上一大的一人者失得之象也悔亦有要原之家也如此在明本是不必不知言以云外有言言言义然是故古丛者失得之象也悔亦有一家原之家也极知的最知为成份中奏我 父化さまがにみしたの私土 うすまなす送れなおま ~~ 子在今 这在具不道因的意 思る兄の主以中十四次的治中 黄七形多子不多也不至一盖吉凶相對而悔各居其中問所自的的超告本自吉 おならりおでない彼少か你 山村也且及夜三衣解说明是 してのそれは、北日茶めて起 もそ本文記さな 八九七五百四七六村在于四 女多へいれいなるではな! 其為在夜にはいあれる一面 日大力了が近かからうの方 方かのるかは、すれる住が きしの我和我都占金十八百一 引力學長角を大した。 則吉失則凶憂虞雖未至凶然已足以致悔而取盖矣 辭也○蔡渊氏曰象者有其彷彿而未形之謂其辭之 吉者則得之象可由之而見其辭之凶者則失之象可 本義吉凶悔各者易之辭也得失張原者事之變也得 而向凶也故聖人觀卦爻之中或有此察則繁之以此 而生變化 不外乎解變象占吉凶占也占以鄰而明故曰繁辭馬 而明吉凶剛柔相推象也變由象而出故曰剛柔相推

是可求了再於本意發化者進退之象也剛察者晝夜之象也六久之動三極 生見不知不正文的外表行性 一家村上以近的 了一个一个一个一个一、一时則此以長樂相對言為是盖悔者真之家各者夏之 以れる死かでなりていて言え 文·至安·罗·哈刷 本義孫變而趨於剛者退極而進也剛化而趨於桑者 都立古史内 子子友化之本什也因女世 七茶之茶茶子奏字(香之意) 美型神聖人子的神福」言上文觀象繁静明吉凶之義()按孟子雕厚厚字意 清清在京是事一 除夫六爻初二為地三四為人五上為天動即變化也 作為表在在是作題。進極而退也既發而剛則畫而陽矣既化而桑則夜而 他方言の明言兄一天一大田 一旦的方是以他的李俊之一道的 生的复数的亲的的老四年在杨俊不已 時為大學之極被持了心思此! 竹報·歌·安·京·京·思·· 由之而見其辭之悔各者則憂辱之象可由之而見此 面かなるかれんせ 朝廷なさら発送者、京石 限多作用五五節力差 與誤同盖樂意也上文失與得對下文進退晝夜皆相

石义及伊大五义 大型的四名石水亚和五里 古ぞれるショ本英、程は了 我就是是我是故君子所居而安者易之序也所樂而玩者爻之辞也 並是私及也多人以分子! られかからあるところをか かそろか、すージススるや 次年了~ 北八谷一千 祖有四人里 七香不苦都者写实好死此 四小文とある。されない天力三な 四年、れるようない不然を見らればります それの不孝 不印刷を云化 川生女化本社名れ様から 元本日子、4、子が五以後君子学易之事 まるのおみらから易しるとも天的なる多う 却我出門其作中以在後出石魚 桑弱是夜之象以前聖人作易之事 臨萬物生而堅剛是畫之家夜則除潤及被萬物而皆 象皆有陰陽之爻或從始而上進或居終而倒退以其 六爻之問而占者得因所值以断吉必也〇孔朝達云 秦相推以生變化而變化之極復為剛桑流行於一卦 往復相推或漸發而類化故云進退之象置則陽日照 悔者事已過而追悔各者當事之時可即即也萬物之 極至也三極天地人之至理三才各一太極也此明例 大万日上天中七年紀日:は安かって天下七年 人 あらう

大文子第二八九六四明至在17

子るよとるかるなりていた!

さるのなりをなっていてい 初堂書的是京是是是是以自天作之言无不利又以不为印史在中及最子不食也 土金是村舍车 物で外投行があるなれる 字が在形内がい四か全国 先ほおると解釈与おる五 える かはるみをはらる 坐下のですらば 保没らる 中共言作指朴文状色发印 等日本布方的古五人初二 内の対死至少 を確立了 あるがと 宮枝 見るかかん 好苦品於母果熟是故君子告則觀其家而玩其解動則觀其變而玩其占 ·给的班子第五大玩奏 詳〇按此二句見易所當學處下文乃言學易 白いたれよいいしとのけん 易し本来がよわった水生 そなるとれけるれる土ち たがはうじれかかるらばん!!! 值言丛之次也必要奉了我的的多者在各面的人生大化中去的海 本義恭幹發已見上凡單言發者化在其中占謂其所 盗而生陰陽剛桑之變化以作易是故卦爻有所謂言 本義此章言聖人作易君子學易之事○按伏義設卦 本義易之序謂計久所者事理當然之次第玩者觀之 以觀象文王周公觀象以繁辭三聖人因卦爻之相推一家 右第二章子が作るころお指するといめるなるとかんまりしたあなる みるまな

我其分さは、于和知弘一月 切牙表用以及 行行できるとか其人 人のはさいなるのえんり人 品は生活多人品切り出 通言是说八卦对言面 四色で石乃于在外三在与五 中京与主公信会元年-7年 只不怕上教的主要各看工 けるるを行びおれたになべれ うて出五矢 易之序是易之序不可不學也其所愛樂而就玩者在 文之辭是文之辭不可不學也是故靜而未涉於事也 矣人之學之也當何如是故君子身之所處而安者在 剛桑相推而生變化者此也聖人之作易其道可謂備 有仁義莫不皆然是三才之至理也三極之道也所謂 動天之道陰或發陽陽或化陰境之道有剛桑人之道 化之有刚桑乃晝夜之象也追夜獨言盈虚也六爻之 也卦文之有變化乃進退之象也進退猶言消息也變 憂原之象可由之以見所謂觀象繁辭以明吉凶者此 凶者則失得之象可由之以見卦爻行所謂悔吝者則

快报布工安都说死方与私 无的意公言 是是 ゆてれようのはつまたるまなとし 至の方のなれずのは、宝む 五发以北及本学及外以及一家者言于家者也交者言乎一般者也按京与陈明·日本西江安都设元为与第一家者言于家者也交者言乎一般者也许用为明之爱女主言爱苦在以 21日六八岁至至佐在香九五 は他一年を名おるからかと 他がある自以やゆる兄な 今れ、手段はそなの名では、」 四人治处在有家面边上整有過也善其能補過也是好好過過一次以外的發在也不知過一次一次一大人其上都是我说失了我有過也善其能補過也是我不是不是不是人人不不是人人不不是不不不知此我也不是在皇 本がわいては、 都心えるのな女用面生ない 少大なかるをかるからるる あなむされんら 付し仕れる 两天四十八十五日南南山安外 一動一於之問舉莫遠乎天理矣是以自天祐之吉无 本義此計文節之通例〇楊氏曰言動之間盡苦之謂得不及之 觀剛桑之發而玩其辭之所占以求不悖於道若然則 本義录謂計辭文王所作者爻謂爻辭周公所作者象 則親卦之象而玩其辭以你其隱贖動而涉於事也則 指全體而言發指一節而言以表面不放及此是在 不利的道之有功於人也女此為前時主要像二年以為西空打三元

不小成別の以及でなら改を決 列者のなちるな古おある表 看我我不可能的意思处例分别贵贱者存乎位齊小大者存乎利游告凶者等与高光不好的是 P 松中名のある古英之弘 末ったるとれかべるれは 按反性不写处为当<u>人内</u> 断小人为五个人的加工为上五 地である長三しか方在! 大权的住務的政治成 |存子解析有分辨之意 東我子下以ではしい脚独之! 家外以各個名字五十七日 ヤイスるないまのなべる| 四大は各次公立人多上する 司易等後南是一九大 乎有各○俞琰氏曰古凶言失得之大不若悔な七小 本義位謂六爻之位齊獨定也小謂陰大謂陽〇朱子 善之謂過覺其小不善非不欲改而已無及於是乎有 梅各言疵類之小又不若无咎之為善无各本亦有過 梅不覺其小不善猶及於改而不能改或不肯改於是 逐善之門也 以其善能補是過以无咎聖人嘉而許之以善益開其 不盡善之謂失小不善之調死不明乎善而誤入乎不

临分为心者党四部以各一张] 是面布B了日子的第一奏悔各者存乎介震无咎者存乎悔 四次は出一天花の書がかった るとお人在出土方中は引か そるしの人は上あのるような 介写好俱主人以看 養之定之 今年 为临至五公 和谷山口取らり出 不走)收死任指头壳车收之 る子ちゃ多大いは、九 けはグラヤイなよまえから ら二分子在不然,只老在孩子 左口在中介女子 美竹花之 港南科口見上方八十万大本地 也其任 貴而初賤上雖無位然所謂貴而無位高而無民在人 也小大猪如小往大來大往小來之解皆計录之所齊 後顯貴賤者如以貴下賤大得民之辭皆及位之所列 陰陰陽有貴賤之理而列貴賤者必托六位而後明陽 與事者此所以為貴也○龜山楊氏曰天道貴陽而貶 大而陰小陰陽有小大之理而齊小大者必假計象而 君則為天子父為天子師在他人則清高而在物外不 曰二四則四貴而二贱五三則五貴而三贱上初則上 1一日的母氏口及思土还防六方指于石段是二方元都女头落假的者的者区主

アーライ・ヨオランプラ

要 好教等差是故卦有大小解有險易辭也者各指其所之 さえていまのるらか 便是大不好的朴及之小 生るのかるい大の見だ的計 び、よいびやり上後を持た 数年年通例和字四分文徒 府以人类的品流成四人区之 中科林出北谷在公元六年 介重次以后考案系 去列上艺术有各族兴运 その村山でのまいまる 谷し ちんがりんずする 交大不辞はかまめるまか 梅本男人谷口かるかした リアを対を 之心而可以无各矣〇雲峰目前曰梅各者言乎其 其辭夷易而指人以所之之得且占也讀逃到之辭者 本義介謂辨别之端盖善惡巴動而未形之時也於此 憂之則不至於悔各矣震動也知悔則有以動其補過 行夷堂如逢春陽如對克舜周孔何其氣象之和樂也 本義小險大易各隨所向○誠齊曰讀謙復之辭者如 悔盖謂欲動其補過之心者必自悔中來也 **亦而自恕也前曰无各者善補過此曰震无咎者存乎 亦此曰憂悔吝者存乎介盖謂當謹於其微不可以小**

此次当のも付 びあちぐむ

松三文称 犯非人父言中 四个各时也的人臣气一居里可作事有是一十十年 南京不多世山田烈之路平上 七年位名の岩面から おかみでんちゃんと そことないいかろんテンド 顺行的收命之代張三個 朴祥多名以佐此果必 面包含是家 梅之四本为了 其国この人は天行の五子 張る口行なおえせる 大有此大人数山村基 不好人於以後都看小大三 季人~物心おこひた近 以我母子だる 住外吸口以心色之後を 中言第二章聖人繫解馬以明古凶之意自是故列貴 本義此釋卦爻解之通例〇葉良珮曰此章前五句是 也其辭親險而指人以所之之失且凶也之動文也變 之形象也曰爻者乃周公所繫之辭以言乎一節之變 玩解之占也夫曰录者乃文王所繁之解以言乎一卦 之得失也有曰悔各者凡以言乎其小死也有曰无咎 動也录與文之所陳有曰古與凶者凡以言乎象與變 **賤者存乎位以下則言君子觀變玩占之事玩占者亦** 如涉風清如履雪霜如對禁紂盗跖何其氣象之凛栗 右第三章

調場的影響和歌人也數 大之象可見矣恭吉子否不利大過利有攸往小過不 卦君子齊其變與不變之卦以觀之則陽大陰小而小 者凡以言乎其善補過也此所謂緊許馬以明言凶也 梅客无咎皆可占而決矣君子辯其變動所值之辭果 明乎象者也解有吉有这有梅客有无法而象之吉必 見矣三多凶五多功此貴贱之凡例也齊小大者存乎 故君子之所欲觀變玩占者亦惟求諸柔與雖而已矣 可大事此小大之凡例也何以謂玩占於辭夫辭所以 與不變之爻以觀之平者賤而高者貴而貴賤之象可 何以謂觀變於象是故列貴賤者存乎位君子列其變 ----*

送せて代的一八百元元 二天用易小佐ながえ 中部命もを直しなり ずとしたみは えしせぬし 玩你 便口以名下名水光 四方門在門方衛一方子 行的事中的出了会第一五 は日スないらてかりて せいるるともならなし 安かなそうる色中致物 人用る安元山五人用る 方の七直至於送之大 给处送中世世之这色外 十分 直子 有衣的正見 確给了比也艺艺例下二 石水分流 易辭也者所以明乎象者也故各指其所之以明乎吉 避凶之道也夫易書之解皆聖人之所繫也卦有小大 吉祁則超之果凶邪則避之故曰辯吉凶者存乎辭所 而位之貴賤可以類推由其有小大貴賤也故辭有險 存乎介且悔者无咎之門也所且或得无咎必當知悔 值雖未至於吉且这也而有吉这之端曰悔各為是之 之故盡事物之情矣此觀變玩占之要也○雙湖胡氏 凶焉然則用易君子能即其辭而求之則可以通幽明 謂介能於此而憂之則不至於悔客矣故曰憂悔各者 以動其補過之心故曰震无咎者存乎悔凡此皆趨吉

信て大き行神で大くるを上 が名之かを終めるる気 用名於大人之一是四个以觀於天文俯以察於地程是故知幽明之故原始反作名然於此不已查 て大ななななるとはなべきなれ 學中學生生的學生打之 才是是人人赞的我是易與天地準故能開編天地之道於那公利出不太子 女を存しる ナルかい 犯了一名石仙以花石松 やつかいでんかった役からて で代学し名立人/美学会 それがあせんせんがん ! それる中也なるためなど ことれ工が国子の中次でから 国をお人となないるた然 ある」直及不許多一方の平永一 乾準天坤本地九準陽六准除○雲峰日隔之則是合 本義易書卦爻具有天地之道與之齊準彌如爾維之 易第二章論文王周公樂辭而有望於君子之體易至 萬爲一渾然無欠綸之則一質萬分燦然有倫此下三 彌有然竟聯合之意論有選擇條理之意〇朱震氏日 節皆聖人用易之書與此二句相應 此第三章事論录文之辭於示夫眾人之用易也 曰此前三章第一章論伏義畫卦而有望於賢人之體

我之初的成了是物情之往叫 地上特へや何不女子を配 大花名一か出日光七八七二 明水学的八月花之終故知死生之說精氣為物将現為變是故知思神之情状 かるるなない思報者が下日の名 にりりょうする アノオ 此於有我们之去,若是传见到 突性され 出るて上れてしたの 中子ないないないれ あたらな 三指 即洪公及与地和本文 不不能 为日老此此法等一班 下位不当先的拥作 日芳 はるのてそかなどかは **弊所指了他善物性型耳** 起すれたもの女をかれた之 伊夫於二下月内上王子子來 十年以及む は 大代女大名 本義此窮理之事以者聖人以易之士也易者陰陽而一意 於後陰精陽氣聚而成物神之伸也魂將魄降散而為一場 夜上下地理則有南北高深原者推之於前及者要之一或多名 變鬼之歸也〇上言易具陰陽之理此言聖人用易以 至其受 已绝明死生中神皆陰陽之人大地之道也天文則有書一大福之 幽上明下幽天文幽明之所以然也南明北幽高明深以多家 窮陰陽之理〇日出地上為明日入地下為幽書明夜教發 始反然者於其終而反求其始也程子白原始則足以問發為 一大大大大 一场心形十生

你在我不是我一行而不流樂天知命故不憂安土敦乎仁故能愛我!!是 祖- 寒入为及于私也在5九十二 快有O机也,移行之第一集四 你大方林之对以此为日本 なんないずをれるめてること これがあるらてのはる 片代表了名人福禄二花光 但代在古人人 恳求如而端而已 初春大夏 由不見二を全奏し及乃明奏 七中两百四八大人五九五八 的主人不且是我不会改处 为地名作农物之不言人 一周切問義補疑不九卷 状也自有而無故隱而為變鬼之狀也 情也自有而無鬼之情也自無而有故顯而為物神之 者亡堅者

衙更無物矣〇俞琰氏曰古人以死者為物 散而寬将則隱而不可見是為變程子曰既是變則存 故又為物化盖生則為物死則為故故即變也〇張子 曰精氣者自無而有将蒐者自有而無自無而有神之 之生也氣聚而精凝則顯而可見是為物及其死也氣 知其終反然則足以知其始死生之說如是而已久人一生成

京体を反反人でひいかをます

多全人の死亡る 正改七年人 不了和今的我至年人经友! を含せきにきるどかにてる 皆在面大川也工不出馬上出 教之云光教用送后始的云 を西北西はでしちいろう ぬび程しあるがんでき 出ただか用しなかであるんと 和用印代上下方出了中方大面 てんどがははあれのきしると 大方子季大元品であ作別 古君子代中人似立即必次之 でのないとなれてなると 性はんて大当て大数と我化力 はななるのちんないないのか 和外子花传传之一大大 意下數句是說與天地相似之事○雙湖胡氏曰與天 廣大無外所以不過旁行而不流樂天知命故不憂即 過此指知仁與天地相似之實處不過對不遠而言惟 地相似此統論聖人之體段知周萬物道濟天下故不 本義此聖人盡性之事也〇朱子曰上文言易之道與 周萬物之知而似乎天也安土敦乎仁故能受即道濟 其相似則配合無間所以不遠惟其周萬物濟天下則 天地準此言聖人之道與天地相似與天地相似故不 天下之仁而似乎地也此聖人仁知盡性之學而上下 與天地同流者盖如此〇按知有未精則應變時每易

て四三部分ではまて行中の 在原作的了命法全来方如 ガモゆてとかからしつのなる 立手这れだいかなてあるか 四形九才如位完工为此學出如此 至五五不名金以任任官之子 帝国好在我又百兵找你就是! いればんべらんとえる名はい 我也沒有母子家田工門的 不是於 主がたちゃななん 空中中之人不住我您 在是 一大生一年来四兄们人而落在哪 五以上四只在此此名し中国出 コヌコグターねう 方为他以至如在不我的之 等るとまのは付きはったとかの 在は後奏不外記を張 あるお 範園天地之化而不過由成萬物而不造通子宣夜之道 而知故神无方而易无體 コフル とうにかる 未整故為補之如此 失其正而派旁行即應變也應變而能不失其正非知 適而非仁矣無適而非仁此所以能爱也〇本義說似 寫而安人能隨寓而安而不失乎天地生物之心則無 是矣以不流為守正之仁恐不當又混仁字安土調喷 知命樂天即論語所謂智者樂也本義以旁行為行進 之精其就能與於此非知之精又就能樂天而知命乎 本義此聖人至命之事也範如鑄金之有模範園臣郭

F·衣が好せたの正式一三古大 一把国方作品是三四次多少上 明五方三方蒙世 兴然後可見至神之妙无有方所易之變化无有形體也 をるとされてれるあしこり 石田のは死国あいまれて 不以作之度玩名の社 一 子が花立本な疾が之だると 去之死因如《三王子生花》 代えばあびるられかの万物 我往 艺术 日 秋光不全物 出花 必まあすあるまななが一たひ! 水だズがら 围处计局主首之至四十不 其お 多しますれるよいはのせ 古代一直古本山中全部夜川 が面色にてたれたおりです 也天地之化无窮而聖人為之範圍不使過於中道所 地之化大而无窮萬物微而且衆範園之而不過由成之 而不遺此聖人用易以替化育之事也〇南軒張氏曰天 〇俞琰氏日園謂如匡郭之周園曲謂委曲成謂成就天 地之化陰陽之氣也萬物陰陽之形也晝夜陰陽之理也 不測故无方聖人盡神易之道故於天地之化能範圍之 此三者不外乎陰陽惟易則能陰能陽故无體神則陰陽 萬物能曲成之晝夜之道能通之〇節齊蔡氏曰天地之 謂裁成者也通猶兼也晝夜即幽明生死鬼神之謂如

居為傳動補新於大者

※万路の日西州のアン北田 我三月或三百野公下也各 的女自 ライながはる来不古る七 羽しゅらそに用るおっち 国政化之先体 を中立た。即不具元此不及二 湖南及市品 俱主名上新三 四世世分七十五七人を夜中 兄百八枚以中处公共至二十五 人知の乳知大比,如下型九四天号元七十五日 てなんちこれが内又した 五五昼夜之五日日本 き同せ 子至八枚東方皇上 本我此章言易道之大聖人用之如此〇按易書卦爻 右第四章的上京。一色的名面 道可謂大矣聖人之用易也仰觀俯察因畫明夜幽上 萬為一而渾然無欠綸之則一實萬分而燦然有倫共 天圓地方必有體易則無體 物而為言易者生生之謂天高地下必有方神則無方 化雨陽寒與之類常雨常陽化之過也聖人則能範圍 則能委曲成就而使之不遺〇龜山楊氏曰神者妙萬 之而使之不過一動一植不得其遂則爲有遺矣聖人

それおいりおうのをうな

主名为圣石上 和跳 やるえかしかもえんしゅのり や白用流でを受かの允件を えなのてせらど一かららな 医计易二子复次 兴知不少 子万省西西左 至不测 化四元方 のけるともてや七里をあ からえする 五年元方元 言在使用处于安不完 おかる一者品之直及夜子工 体られかなかるころ 考之文字处两至 不仍易x. をすからるぬね 信へやし 护物水土 差成而能不過旁行以應變知之之精不失其常而能 明下幽以知天文幽明所以然之故因南明北幽髙明 陰陽之理而聖人用易以窮陰陽之理如此又若天地 潰復婦於大化也而知死之說即人之氣聚而精凝顯 聚而成形出於大化也而知生之說即終之氣散而形 深幽以知地理幽明所以然之故原始反終即始之氣 而可見為物也而知乎神之伸之情状即人之氣散而 乎萬物而道濟天下也與天地之廣大而無外者皆不 之大聖人之用易也與之配合無間而能不遠其知周

成令出十名一年左星生 周易傳義補疑人九卷

方上投了乙九一切して近日日日日日日大町上一八八大 都お西大まかまで発 方名九体了此的方指用 上弟才你吃了他人艺教主 以数学者 茶宏春路 からうあるなれる次元 ·相田石·从玉上年三年五 をひかかないめりそう は、七名元体之不治之が死 や中间かってるアンスル いまましめおざかむるか は者大名のとうするはう 西一字原是 不防力神法句述 10111日公台 之道故於天地之化能範圍之萬物能曲成之晝夜之 待聖人而裁成萬物聖人能妄曲成就之而不遺是天 天下之仁而似乎也也是其能與天地相似矣然不但 巡明死生鬼神之所以然聖人通知之而有以深徹子 〇神無方所易無形體其道之大如此聖人惟盡神易 地之化有待聖人而替助其所未及以至書夜之道乃 天也随寫而安敦萬乎好生之仁而能愛此則即道濟 似之而已也天地之化聖人能範圍之而不過是天地 不派又能樂天知命而不憂此則即周物之知而似乎 を再任子前はスといればれ は、日本なくるていておしる あるも五しか中名中 あなかとる一つなかけるか 次十七代了人珍花花女子 文州公和中四南史中文一 州で元州太正、月北八大宮見 如本水产年经验是機之者甚也成之者性也 今中的百多山土州是福一次 松点なかかゆきな生ある おしなり色やしゃかながせしるる するとでるけんに大生 大出道東京省内理九治上門 我公兄老人有老家上的 いの名の也なるの見直する はいがある主任人作か 「たって 日本ましてオ 陰一陽之間道是BAMTEBAM人是刑犯人的言今日在我们的西面的区面不 本義道具於陰而行乎陽繼言其發也善謂化育之功 所以循環而不已者乃道也 道能通知之以此見易道之大能彌榆天地如此聖人 陽之事也成言其具也性謂物之所受言物生則有生! 按陰陽從奇偶选用上說來不先言陽而先言陰將就 而各具是道也除之事也周子程子之書言之備矣口 本義陰陽迭運者氣也其理則所謂道盖一陰又一號 用易道之大其能彌綸天地亦如此

ガスをかけらずけるてか立 好生元中是多人是一仁者見之謂之仁知者見之謂之知百姓日用而不知故中見之其是 80分至一仁者見之謂之仁知者見之謂之知百姓日用而不知故 世代記録的指面が送る だる皇代化うちそそがて 飲死人於夏中方色な上次 九年7上张良一女性早能人 立まる一下でいるとそれと 中代元新で お食いはいるえかい以本 とをおいからけなるらの の明めます。改善はからいとした。 造化流行上認要峰胡氏回繼者静之終動之始最可 禀受上說雲峰又謂本義以繼言其發成言其具盖在 見一除又一勝之妙成之者性是氣化以後事就人生 善之長此繼之者所以為善也是指人物未生以前就 所繼而言也陰靜之後若不繼之以陽動則造化我平 是理以有生則天命已不能不麗於氣質矣下文仁知 造化者方發而賦於物其理無有不善在人物者各具 熄我繼之者善問静極復動則貞而又繼之以元元乃 百姓皆指氣質而言也

といいのうし女化しか

老男的给幼稚像种办法 生ころいの教養的電子 東京る者を見る。即顧諸仁藏諸用越動萬物以無心成化而不與聖人同憂苦·れ方、用而言之 順諸仁藏諸用越動萬物以無心成化而不與聖人同憂 を人もとかねちかいりたと ここうとなれたべこさこうに 祖之言以明名大道者之 即花用了了的人对在女子我 カヤーるが一教の一者 人把这个如西林人至当日用 大全中山おくれば大は以至 历史 英国一四考日之病英 おおきと下三なるおき一君子一道鮮夫、きあるいた、お此かるい知、りつたせれるたみる知を又不む一分であれ おではかせたる ならげる またして其となるおお私しいっていまするよう 本義仁陽知陰各得是道之一陽故隨其所見而目為人名其 全體也日用不知則又其每下者也〇節初齊氏曰仁 者見之於已動之後而識其動而及物之機故曰仁知 者知者亦未見道之全故曰君子之道鮮 姓則行不者習不察全未見道者也百姓固未見道仁 者見之於未動之先而識其復而幹事之體故曰知百 本義願自內而外也仁謂造化之功徳之發也藏自外

はますことるの下ので人」 の知を人口を養らた日本 すらったいはのかしまに これんはれるかとうるなな 传為此四台堂二子以子气 なべるといいこれなのか 考古者以 かけれる気本般 古圣人上 要人日本 ちゃくうあぬ てかしかだとうだけるのか 子地方知るが見かるたかと 1萬子最能三司以及に入公 处死用中共不し大处了校定去 出たる社は用品石印じる 海が必えるからない 者而当ななかかるのは個本 俞琰氏曰富有者謂大而無外物成而歷所不有也且 冬則收飲成實是藏諸用春夏是願秋冬所藏之仁秋 冬是旅春夏所願之用〇俞琰氏曰天地以生物為您 目打者久而無窮謂無時不然無一也之間斷也。 子曰富有者大而無外問無物不有無一毫之断大也 故謂之自外而內如恭夏之生長萬物是顯諸仁至秋 發出在外故謂之自內而外用本在外以其收藏歸內 以成物為業其德業至盛至大亦無以加矣〇本義張 成化聖人有心而無為の勉齊黃氏曰仁本在内以其 而内也用謂機緘之如業之本也程子曰天地無心而

好了的一颗中不可不是一生之間易姓度为政治专名为对战下中的即居并也成为机造工工的成本的有效的人的人生之間易此後以陰陽之在易書者言於明明的人 年野年見し中本だられ 知予高物不是下我は改五 在多見教院送往去先班 作品上位業地心释其為一日教學教祖就以九本 始しい人がてなしるべるいか 过化数设仁处其七七世 をおおいるなくなまれます! 化局面分大类以口彩在安臣 がそでのましず さかれるほどはすびずかえ あるえる住事事の五四 胡生蜂中本义上去四天的 化方しかかめったるさん! 以言盛德也此前以疾陽之在造化者言 運行不息天地之盛您也功及萬世聖人之大業也終 也天地也聖人也一而已矣生物無窮天地之大業也 不窮其目新之謂數〇其西山曰此雖言易之理然易 如此若言聖人之德業則亦如此而已矣〇節齊蔡氏 新者謂方來無窮物生而與日俱新也天地之德禁品 始月新聖人之盛德也學者有志於進德修業亦必以 天地聖人為法盖其富有不可以言大些非日新不可 曰天高地下萬物散殊其富有之謂飲陰陽升降變化

以中子内有四月二四 图易等我清疑不元长 地当代四五五年人名 極數者數一年之間占通變之謂事 文之 位氏状列北二十三兄 は東上東る石砂の月2年 作るけられをくけいるかと 故唐的努市片下大地 成家之謂乾效法之謂中此除陽之在非者不知亦敢不敢至多多 男子のなけか 中かきたり 事事で元 当かかかくるれから おることがんれること 西的生産者と教士大切外で ゆあらるまれれるく 死亡中元 名不必料为らだ茶 あっえちゃいけいち あまな 白お四名上五十七分三十八 はいりんですなるはらて 国氣再以足切入於任主 效法等了四放此效此数工效力了故而在我们是男 二三十二而六十四等而上之盖生生而無弱也 成已定之物可以形狀見者一一呈歐出來所以謂之 **氏曰自太極動而生陽静而生陰是為兩儀既生两儀** 本義陰生陽陽生陰其變無窮理與書皆然也〇分敢 本義效呈也法謂造化之詳密而可見者〇成象如日 月星辰在天术有實形但積魚見其服象如此坤有一 及里四象既生四象又生八卦八而十六十六而三十

这用于歌七花用した変化 かずないかるらうのかるので 不例なかず今州る少了るか いわららそもかみいてもです 去事におおころ一川でし チャガイランのたりきれけ 及名於保備不得差 取收主 おべてもまながしう 五公己以及在公公在长陽不測之部神 ひ因れなとなっている子 かよからっとしるおてやな 姓致下山西之佐将人多说! れれはとなるできる 打ちしのいかまからこ 本義張子曰兩在故不測〇丘氏行可曰上章言易無 决者獨于陰也心殊忠定公言公事有陰陽意盖如此 變而因以作事此陰陽之在著者 未判時獨陽已判時獨除〇按此自是二項文公問極 本義占筮也事之未定者獨乎陽也事行事也占之已 極七八九六之数而占以知來通陰陽老少所占之卦 數知來所以通事之變作串說恐未然〇雙湖胡氏曰 體此言生生之謂易惟其生生所以無體上章言神無 方此言陰陽不測之謂神惟其不測所以無方言易而

あかえんはんないえている いろうろう 色与地方位業である おるのかかがらかけっと はら为人知り 被子の代之 上されるあるで生きたら ろなるめいのまること むめんロミンラカカで ゆみべけるとはんかな 内的力力投行的用人公司 日外の日本する後月から カスンとえんがゆられた 此母養2後生不倫到改 き」かかとるかかるないが 之占事則神所託而願者也神易用而變化無窮其實 除陽氣也其所以一除又一陽運行而不已者乃道也 未當何於陰陽也此句指陰陽不測之謂神而言〇妆 道之體用夫固不離乎陰陽矣陰静之極而繼之以陽 則不越子陰陽而端而已 動是真後繼之以元元者善之長此所以為善也善之 本義此章言道之體用不外手陰陽而其所以然者則 所成各一其性乃萬物之所各正此所以為性也是道 7 ml 1.11-111 1 1 1 1 1 以乾坤繼之乾坤毀則無以見易也言神而以占事先 右郭五章

里等っていかかんがかか をもしいはているまると 安月をかかの少子人で出面事 对教的个由你心化等人內於不 人物即不存的的 色子 其子かる花の内面し用る 場ら以色れ日本及ちに被 まつまあかい用とできる びかいおきれいなかな 中我也看完整一得其一備者仁者見之謂之仁知者見之謂之知是己如此我也 天好在見おしが出り込玉 用为好一种生艺化作 711七年考らかぞうに一 如文字 多面谷意一有有之而其然問題者百姓日用而不知是已此君子 たいちるいいれた西世 立名的女力全人名以上居場傳義補封一九卷 (都多多名於多)也人人有之惟聖人為能全體之聖人之外有有之而 之仁秋冬之收飲以藏春夏所顯之用其鼓動萬物而 萬物其仁顏而其用藏如春夏之發生以顯秋冬所藏 生生不息也以無心成化而不與聖人同憂焉其盛德 富有之謂也何謂盛德日新之謂也富有者以言乎大 大業見於生物成物之間者斯不亦至矣哉何謂大業 之道之所以鮮也且君子之道原於天地天地之生成 而無外者也日新者以言乎久而無窮者也陰陽之

为产生经济及大多届美大美以言乎凌则不你不以凌而家以言乎通为产生经济及各种的 陰陽也用水流是的是都是无过造作女形文的的人的是好是不过造作女形文的的人的人的人们是不是一个人们是一个人们是一个人们是一个人们 生男子三十五元男、状 なこれなずの出入がある時と 七十日之外が奉いいた成大子 但用六品其樣次下指在大學 山す一十一天大可以名面 兄はある大名のかない世界の野の大変の大人の大人 処なけた日本民意立立 代文在罗日八方也许犯了 了私中亲布送子~品配 さずるみしいる用と ろんず、用るがの月らかに 女面次只 全马 則持而正不以随而偏静而正言物未動時亦無非此 之在者者然也夫就也坤也占也事也易之陰陽可測 神惟不測故無方此其所以不離乎陰陽而亦不倚於 之謂也易之陽而為乾者成象之謂如如之陰而為坤 之謂也因占以作事者通手卦爻之變之謂也此陰陽 者效法之謂也此陰陽之在卦者然也占者極數知來 造化者如此其在易書者則何如是故易者生生不息 而知者也若失陰陽之妙不可測而知者其易之神平

古ななまななもれと同くす

のえかなからはるちまる動也問是以底生馬 李知中的鬼的晚日里之不偏者以言乎天地之間則備夫不以事物之多而大二京三十八日日 大気にも伊礼丸スコマセラ かまかまないと、夫克其特也事其動也直足以大生馬大坤其静也有其 他九一不生月十天 年中自形成此為大臣不但 死でながらと考える 一不情 からあせんまするかるまと 上路の方のことをます 近日本 ~ 木をにかるする てやうみてやしかかるゆるべ 灰的古光好为我就是是 あいの体でもであるかえ! 看又力主生物上就去不好你 るるろやましゅた れゆした大雨生きる水水元 本義乾坤各有動静於其四德見之静體而動用静別 本義不學言無盡静而正言即物而理存備言無所不 地之中也易之所以廣大者以此乾以其言謂天包地 量言而曰廣盖天之形雖包於地之外而其魚常行乎 而動交也乾一而實故以質言而曰大坤二而虚故以 有

大水でえた中で方大大切な 收,未为中是差五名之食 学者于好有四分日月至日生 七十十十日のきまり四四かか 了他向北角配やあれなる元代 やお神ないのるびしめ 角やあれる内立りなは見 不在女兄好公子的人人 好意多多过了意己至德上三句以易配天下一句以易配人 上不留主作的可见太思办! からしておうらしゃうろうまと きしかいて好たか かあであますありからいを() えが同るる異一人ていちらえ 四月都全工學中的人的情况 九一代行山州野死人民都对 なるいできれる大多される 黑石石谷基表 生品便工 本義易之廣大變通與其所言陰陽之說易簡之德配 此四者是不謂之備平此章論乾坤之廣大結之以易 之天道人事則如此〇按廣大是此章總目直與關即 廣大而易簡其言之序由博以趨約也天地之間至大 遠不學專與翁即詩正大生廣生即天地之間備美自 直送坤畫偶故静翁而動開翁是兩合開是兩開 者天地至變者四時至精者日月至善者至德易書具 坤以量言謂地盡容天之氣也乾畫亦改静專一而動 山中在下设

下地中内的以京外の有的外村上房下月は三月以来大大日は三月以来大村 文直配图也成了七日八八 押打し又打の月七中高三位 刀以及五分八八八大大大大 ゆあおしま 死五片 サイル上の俗き 記むるかな 己在中でなる世上七七 め石五では存るがかるそ 名考らてなしかる人人大之 す人の下のばりなれるにそか やしたほうゆかられい 深まさしれかを下のよう 「えるにゃんぜひりじゅて 簡配至德然則易固不徒在乾坤而自在於吾之心中 关 之間無所往而非易以遠而言則其理通行而不禦以 虚不變則其静也愈變則其動也開闢乃乾之德也大 則其静也專變則其動也直直乃坤之德也坤畫偶而 言則萬事萬物之理無不備馬可謂廣且大美自乾坤 避而言則其理具在目前静正而不偏以天地之間而 按易之為道也廣大以言手遠以言手選以言乎天也 二卦言之守一之謂專兩圈之謂翕乾盡奇而實不變 石第六章前章積易之書此章替易之理

里古やき唯以の一次最及 安了是如果中国是此典效天也故有取於乾甲欲其法地也故有取於坤書言言可言多名如果故知欲其崇知也識遊〇葉欲其廣故禮欲其事崇敬 けいかるというするとうが 大季彩了苦歌传题目的翠成南庭一见到一个木應自者子曰字疑皆後人 第五名中的·清·子·日易其至美手夫易聖人所以崇德而既業也德欲其 保をするホルけるまたり いまいずののもえあるやうたい 七旦以传学设石 下"易了王兴 全分 已成好战人好你在世史六十! 教大明代名把伊姆色茶上 あうとならなをまめたわし 星竹中本 茶の外記らえる 九丁を知時れ年日本 此然則君子其可不學易手當了養存養不為人前也 如四時之變通易所言陰陽之義與日月之陰陽相似 易所言易簡之善與聖人之至德相似易道之廣大如 故大地足以容天之氣故廣易道之廣大其原盖出於 此由此可見易之廣大一如天地之廣大易之變通一 生廣生謂乾坤廣天而生生之道無窮馬天足以包地 ハ

が

松子中了在色型大孩一天地设位即草中定位险赐餐化由八卦生六十四卦而作的写为去零事为了 生子作又考上的少女下中的反传与不写在设备了去文学上的一个情况的一点一点,一高又回这事也合理那事也合理精果多案便属其已十 下此時去石力主人以至人 B本書店書品等 成說之類 ○學易者亦惟觀法手乾坤存存其已成之性 2 ~ 2 ~ 3 ~ 3 ~ 8 易行手其中美循後言乾坤乃易之門也然明人之成性 大きばをされるでくしれ 五名你以常教不敢包物此 上ろをいしれるれたけるな は一字不多力で因子等的で 四部方面的大多大大公室存存其不為道義之門乎①成性足已成之性如言成德 上不知于俄北西的一个的日 不られなるかれしなう女 大百日で大枝付四十五日 格里、やなはるかいれ 而由手道義之門召按下內沒在白布面上高花見言為上京大北下地局 リニイニオリンジス 故所知時進於高明而德以崇禮以形氣為質循理則加也知以虚明為用躬理則知崇如天而德崇盖知崇 廣此其取類又以清濁言也米子曰知識百多則知益 禮甲如地而業廣盖禮甲故所行日就於平實而業以 ちないちゃからりまれんいなるしにんなかをくらせ

それでしたとるかられた から我に事代しかあらなる おに天大一あるるるでから かかかれらての全意大路 ずかなると田いてれます! 不久子我美化写代女女美和早的一天外下以一个孩女 こるで 美の日から しめかゆりぞるまれてなばか 好面面9岁了了不去你不舍 しかときるでいかした命へ 五年代年代李人方向如秦人 なったらきれるかか あらてれかかいてなけると リケタのおえいてなせると 俞琰氏曰成性之成與成德之成同人之性渾然天成 盖無有不善者更加以涵養功夫存之又存則無所往 本義天地設位而變化行猶知禮存性而道義出也成 也〇誠齊楊氏日本然之謂理當然之謂義自其本然 而非道無所往而非義矣謂之門者道義皆自是而出 之知禮能如天地便能成性存存道義便自此而出〇 而行其當然之謂道 性本成之性也存存謂存而又存不已之意也朱子曰人 之作易與學者之學易首皆有取乎此也 右第七章此章賛易道之至主乾坤二卦而言聖人

用品為東西北京

公民が好けれは伊はい サーラ からなてえるとか 考·改言之子·時間· 西智禮之性而已矣智言崇禮言早知崇效天則與乾 実れ早日の古中を大子の をおれるまではたれしるた 不っている。代 るかでろ 第一次: 花池 经人好以家 唐皇侯第三年 双門的おき後あると五一 金色了了第四年,禁良现日此章以吾人之性比天地以所生之道義比 不完大的不言意意 捕金名 我からありかとするか 了る代学記世代美 三大四十八十七 みつけえ 一天地之易子曰易其至矣乎夫易者變易也變易則有 一生生不窮之妙此聖人所以崇德而廣業也崇德則日 窮是以富有而日新以吾人言之智禮者吾人之成性 新由之廣業則富有由之然其所以能然者亦不過盡 徳之者也禮甲法地則與坤作成物同其能所謂優優 知大始同其他所謂洋洋發育萬物收極乎天者皆其 設位則乾知大始坤作成物而易行乎其中矣生生不 大哉三百三千者皆其業之實也故以天地言之天地

二十五

多多年最后不清末形谷为京居田中的木與主教表其物宜安东西粮食有水水系是成了中国少年月日中的木與主教是大物宜如乾种能等了在京客是是是里人有以見天下之情於雜亂中見其不雜亂之理而提 かるとうなるのであるかりの見にから 日刊本来却以各种行及一种称此馬之類是故謂之家对方可以不用可以不行行的方面在此 另下が休布をかびかます! お上づかるのかんない 上文化:して以び正式之母女 おふるるとしかるえちょ 四の多る月下前までた! ちを動かけるかって 大城 大きるの情報 おなると - 一一のやだっちている 西方才報云日三十引起 あのなりな上する。 原しかとってはかをおすが 此以する方 かられたず 本義順雜別也象卦之象如說卦所列者為并看刑的時 易在吾人則謂之道義位謂有位可居門謂有門可出 三極之理其一而二二而一者飲 必不能成變化以行道義故曰道義在天地則謂之易 吾人者也是故乾坤毀則無以見易智禮不存則性壞 矣齊置無息是以他崇而業廣德崇業廣即道義之在 也成性存存則智以知之禮以行之而遊義出乎其中

コーエスフィース

明的日本ですると、以断其古以是故謂之文除陽之交 時馬之交 明然のままままる事を見れる 聖人有以見天下之動而觀其會涌以行其典禮祭群馬及至文多為為為 すべてとずりからずかるてい 工作日有八十四百天然北 西殿 えてでくみ 移動る 党 大て下しきのよりえな のきなる田田初位で 水をきのりまれ 中在のかのかいかってんか を見けるかななけたから人 か中全国不らいいること 力を今れる中である中 アイマ にいてかかられれ ないかられまとるいか 日本を良えるの内はあれ 天王くれてごまれい 行處欲常行法度不廢於天下則有爻解斷之曰如此 柴氏中行可聖人點識天下之動觀其事理之會合通 於其中却得箇通底道理乃可行爾如庖丁解牛於族 爻也○本義會謂理之所聚而不可遺處通謂理之可 處批大卻導大家此是於其筋骨農聚之 則吉如此則凶人知所超避則常法不廢矣此所以有 行而無所礙處如庖丁解牛會則其族而通則其虚也 〇朱子曰會是衆理聚處雖覺得有許多難易室礙必

安治了五天的王老子之一之至動天下之物雜而不一可謂晴之至矣聖太於易 あなるとするないる あれかもしまってえ ほでなるまなしなるな おけめれかる一きるぞう 不为多公己、江上大路 得了人子林子五京七三 李明改五年卷一至動動展易亂而不可亂也 あうさんとうとこれなる 下が上外心災山とおまれや 一之動授授而不齊疑若可亂及之所言每與事適則人 将居而安之矣〇俞珍氏曰聖人唯能見天下之蹟故 本義惡猶厭也〇鄭康成曰天下之順去人情也遠疑 若可惡象之所言每與理會則人將樂而玩之矣天下 能言天下之至勝聖人惟能見天下之動故能官天下 常禮常法如 之理又白會是衆理之會通是擇其通者而行典禮猶

田中で五九子会い子会 老丁年の文さる文的かるの 直の一大石と一分っと投入を終格がおれてなかられ 南神教代表主面防空 全男子一全成子一古民 第一名母母我 提易之而後言議易之而後動擬議以成其變化 安全品 既存化 すているなれたち又古様 するとあけまなるれて ちおきるとれるかいまさると ₩4.6G#孩子以为 大学はもぶるれまる はさるのまとさいだろのろ 月 多小子子 ストライ 之沒深洋略必各當其理議其所合之爻以制動則動 本義觀象玩辭觀變玩占而法行之此下七爻則其例 之义速仕止必各當於時而易之變化成於吾身矣口 亦亂也 不疑之而後言聖人之於文处觀自通以行典禮學易者 也〇項安世氏日學易者擬其所立之象以出言則言 象言之則學然當於心盖不可惡也天下之事變而不 常可謂動之至幾些人於易文言之則井然有條盖不 雲峰胡氏曰聖人之於象擬之而後成學易者如之何

そろとなびらある 出名しななるだろ March March 之物宜如說卦中所列者皆不能外乎此矣是故卦之 事物至腈也腈雜亂也坚人諦觀審察有以見天下之 與禮此章言易之傳無乎天下之情與動也且天下之 静皆中於道之謂也〇葉良珮曰上章言易之約惟智 順皆陰陽變化之所為也於是畫卦以機諸其形容謂 其變化學易者之變化也〇按擬議以成變化語點動 **晴是也如乾象天坤象地之類及乎卦畫既成則天下** 如之何不議之而後動前言變化文之變化也此言成 形體謂之象不獨天地風雷水火山澤也謂即計畫亦 提諸時之形容也象其物宜物宜循言物類即天下之

好头 中生 生工不例や

乾之爻解也所謂爻者效天下之動是已是故六爻之 當行如約約自購入于左腹遇主手巷往蹇來連之類 見天下之動皆人事之得失為之也而觀其會通以行 象也天下之動至無窮也聖人備當衰世之憂患有以 典禮謂法度也於是用此理與其物繁之易書三百八 其典禮觀其會通是就事勢之凑合難通處看理之所 動謂之爻言乎天下之睛而不可惡也天下之事物雖 十四爻之間以断其吉凶不獨象群謂之繁辭若乾初 至雜亂要皆理之所有自合理會不可限也言乎天下 爻變則成姤二爻變則成同人則如同人之彖辭即是

リノイミナましてえ

第5年就的各主在候其室出其鳴言善則千里之外和應之况其随者乎 本至此美味之之鳴鶴在陰其子和之我有好野吾與爾靡之子曰君子居 原門日代兄をいるるよう 好石实 班主作者 为人之了 第1五年代成五年大子 **伊七日子山山田田田田本木** 好政道小は大多かるい立 なるなて じかきるあけまれていゆるが 第二日本七支本七说() 東京各口重化を古 風を二字元 A REPORT OF THE PARTY OF THE PA 三百八十四爻之几例云 以下七爻皆提議而言以俟玩占而動者也故舉以為 以生矣所謂利用出入成天下之亹亹者是巴若鶴鳴 以成共變化或出或處或點或語而富有之大業由之 而後動則動必當其時所謂以動者尚其變是已擬議 有其方不可紊也是以用易君子提苗易之群而後言 則言必當其理所謂以言者尚其解是也議諸易之動 之動而不可亂也天下之動至不可窮然計交之辞物

至了是是是以出處語點發明號笑之義二人同心其利斷金金至堅 有美主義者 同人先號水而後笑子曰君子之道或出或處或點或語 我国是一重大的一是城市心有断之事并并成于身处的一人情九五六二 多年五号或在事堂之聲出乎身加乎民行心之迹發平河見乎遠此四句即是在空堂等學堂堂之聲出乎身加乎民行心之迹發平河見乎遠此四句即 四村丁文句及を北京成在一月 多作事子表一多丁老 四日的我我的四百日至本義釋中学九二交義会生各四至人供名不停于在西外了都在公文 がであれまするとうちょうちょ 方本でます 大民我又作世家 好野爾靡之義言行君子之樞機户之動發於框矢之動 以大古日 アンスにはにかない! 意不及是事先上居其室出其言不善則千里之外達之况其避者乎言心 十天中元公共 は何みや 發於機個機之發禁辱之主也言行君子之所以動天地 本義釋同人九五文義言君子之道初若不同而後實

原理学はの子のなるではない。 日月の日本大町で、アントン 物であるないとれてい 在在中午中主地致恭以存其不然位者也識受益如此 会科特人是自己的 李英·李·李·李·李·李·之至也語以其功下人者也德內言盛禮如言恭讓也者 是我不会死亡了一些斯什也以往其无无多所失矣虚或必用·药物的五代之数以为我臣 報·唐登·美光用茅何咎之有慎之至也夫弟之為物薄而用可重也慎 ないのからからかったという 是的為開了等所外的時間的并不好了日前錯诸地而亦可矣而又籍之 金田かられなる大 とうただけてきる日もおなる 例不失順 三士族的元命长和 博力をあると行いあべら (次放立) -おきずはし秋をあれなた性 村七五三見かはす佐日野な 共恭也〇 俞琰氏 日致恭謂極恭存位循乾九立之存 本義釋謙九三爻義德言盛禮言恭言德欲其盛禮欲 本義釋大過初六爻義、黃明大天用不二至女 無間斷金如蘭言物莫能問而其言有味也被其及此 Ξ. †

住之时込いかかのた大か 南州ラ村守護山北京大 るまたしれかご子は水数屋立 以表表之是其一則失臣臣不審則失身幾事不密則害成是以君子慎客 色和をあけれずる空間 みゃるにふかるりやりるて! 杨仰季 摩吉密等武官上 存しなな人 元龍有悔子曰貴而無位高而無民賢人在下位而無輔 トッイラオ美アフラ 松子の子を三寸成の外に万分の家里をうの以るなのなし笑かのながようかとほいは外に一部之一教造い舌亦人一身之門戸也 是以動而有悔也我以大学人名和罗里上了不是百百日的 義致恭以存其位謂禮極具恭所以存其分義而不敢 踰越非是保其禄位而强為此謙也 本義釋乾上九爻義當屬文言此益重出 本義釋節初九交義國不至自知法不当马品花出不再了治や

开西安州和农西等户上下暴暴其下盗思伐之矣来其過惡而伐之慢藏梅益 唐子なない作の人うのここ 好文中的社员等了回作易者其知盗平聖人作易以盡情假故盗之情偽 至天文文等等以外,如之易曰爲且来致冠至負也者小人之事也来也者 であて文本為語記一一一器也小人而東君子之器盗思李之矣上慢慢其 双级学社なる人など 灰半春七十岁年人長我也安 五九万也以及高京京 一知子为其否任治性无法 本義此章言封文之用心祭氏湖曰自中乎初文不此 員擔者小人之事也此言居君子之位而為無人之行 本義釋解六三爻義〇董仲舒云來車者君子之位也 者其禍忠必至也 ノーとうちょう 右第八章

祭命出世前奏學 之道其過於言行故擬議之學亦惟以言行為要然則 七丈さるかがしなわかあんこ だちてかしあれるるんし 在中代冰山中指著百名 自う用学あれば多利な存れ 一切相考汝二三是切相之是九 だっかしあるな様でを かけで文九多六十五人 お考和かりおかんとる の用てからなしのかえ 大松之数一面也多国面以 化说来大学招个同名文化 作五世四世正十十 将以尺式 一月易传 并科新 八大老 外乎隨所處以慎其言行而已矣故中写九二同人九 言而不出可也解六三又明擬議之道當量身而行不 君處元之道處勞當益恭慎其言行處元但當黑其言 以白茅錯物也讓九三言人臣處勞之道乾上九言人 遊其行而不動可也節初九言密也舉君臣皆當容其 五皆言乎言行也大過初六言乎慎也謂慎言行當如 〇葉良珮曰此承上文言凝議言行以成變化者亦不 凡七乃夫子擬議之新而為三百八十四爻之凡何也 可以小處大以賤食影自招攘伐之禍也盖五身變化

いるまでは一番又公子! 女院七日花送代工五十二 死のうのかありるらをすれ 「大型奏与茶五多の大一大一地二天三地四天五地六天七地八天九地十分多人 佐日教色子別けるほとか 明子を口る而了花園上社 河南的图记之四天 作時子 古歌 美传字教 后水料子 下松上最大村的日人居 不 **すばてあばれたほどろ** 主教者で化不らい三を終 **や用面える、たらな** 教寺本凡寺安属了打京! 是我行倒上我了在快议十 しか月子に来るたけられ 用艺品的好在次日本面 言天地之數陽奇陰偶即所謂河圖者也其位一六居 本義此簡本在第十章之首程子曰宜在此今從之此 言之則中五為行母次十為行子次一十二四為四象 之位次六七八九為四象之數二老位於西北二少位 之所宜損益折衷而用之斯為善學易者若徒泥酱文 下二七居上三八居左四九居右五十居中就此章而 又当接議之一一工事教者中工夫女相差的人人的对称的不对白了白五五章 百八十四爻首可以類推也乃若擬議之道又必以己 擬議止於七爻乎曰七爻舉其凡例耳能通其理則三

是日本村里是五首文此所以成變化而行鬼神也孔子解文變化即在我下京大學看是我二十有五五其五地數三十六其五凡天地之數五十有 二天乃生一、中一七世の元白 中主思看四点是 里都出了一段打手得你及了作届时去有之为及你说器作品气的风神不多生了大多花五行生成上見鬼神即是變化生成之妙用 生五三天教五地數五指文五位相得而各有合孔子解文天教也是三天老章天之一天数五地數五指文五位相得而各有合孔子解文天教 五至二七八九十不過二十一百五 大村元佐心 果太子 全部 五九却不七 あしのしあるかある方がラ たれれ内出り別のるよりなる 己 以下在四国到野工这一 至江三四中三四天至三十 こで不成方示応見る 原見信事補詩一大者 八而數須十者八是陰陽數十是五行數一陰一陽為 典辛水包士葵所以為十世第四次因多分的上五路以及五年 者盖一每包二如水包甲乙火包丙丁土包戊已金包 本義此簡本在大行之後今按宜在此天數五者一三一 於東南其數則各以其類交錯於外也〇未子曰卦雖 二以二東二為四以四乗四為八五行本五而有是十

以此不安子なるをは一周多年表情に入力後 格を数字の主動のなんで 以五元りるけれるる 不必差五十七以歌五元 な大傷さんをまてたとる ちした例出在主年上去 チ化しある子れてかしあらず 日本 京的西北一四五年 大三面面なるまれたなな でるか上でなんかてまん 去了多一五五五五五一 乙除與與防合丙陽與辛除合丁除與壬陽合戊陽與 るれるするなしのどえるい りからなあべいる今天本小 不去此又第一般主义了万多 不一天的人人人大大人 シモ太スツかち、第二秋七世 變生土而十化成之鬼神謂凡奇偶生成之屈伸往來 者〇朱子曰在十千甲陽乙陰木丙陽丁陰火戊陽已 成之三變生木而八化成之四化生金而九變成之五 一與二三與四五與六七與八九與十各以奇偶為類 十皆兩相合二十有五者五奇之積也三十者五偶之 陰土 唐 時 章 除 金 士 陽 癸 除 水 是 相 得 甲 陽 與 巴 除 合 積也變化謂一變生水而六化成之二化生火而七變 五七九皆奇也地数五者二四六八十皆仍也相得謂 而自相得有合謂一與六二與七三與八四與九五與

からいたとうとはなってな

まるとうとうとう。 之至用以定則又止用四十有九盖皆出於理勢之自 まるとうとうなる。本義大行之數五十盖以河圖中宮天五東地十而得 をおこををみずる。本義大行之數五十盖以河圖中宮天五東地十而得 四天教育男界之大行之数五士其用四十有九分而為二本文以象解两好或是受到孩子中中是假要者故 只是地看好 七月九十五七年八年 いから りは有少が再奏立のかろこ 一 野子物生を存在すけない 五五人在日兄母住野道二 甘口意化立法はまでなる 第一年是我文於协以家解閏五歲再閏故再抄而後掛 等意見 掛本文一以家解三拱本文之以四以象四解時隔奇本 なあず向る天弘医用な 化杨生山然以言之至 者以君養養 有五也以地之二四六八十總之則為三十此地數二 十也又以天之二十五地之三十總之則為五十有五 也以天之一三五七九總之則為二十五此天數二十 癸 降合是各有合〇潘氏曰洛書之数天地自然之数

や教食すべるまれだられ 場けんなかなしり 中央省成功ないのかいで おもれらどとれいるるも 作的あれ 却及沿直和 西州西郡子科化宝家大家 七其用二子 豆头形産安 ちゅうてあれる何をと 不好:我由上行面三一人不不中 不元的な面の人 内外代記気からから 名·皮及伊州本有也但白 をはるまやすし 長ら大好七 西名全文公公你不好 するとうろかのかんちゃれ 一九色太立東不五名が一八 英万品 仍也如于恐切上高 十八字 改元 方八次左立 月リーアをすして、うとして、 揲而 拱而一扔故五者之中凡有再扔然後别起一掛也一之中凡有再開然後别起積分如一掛之後左右各 於五而五十所宗者五也大行之數五十而其用四十 徐日而成月者也五歲之間再積日而再成月故五歲 都氏曰天地之數五十有五而大行之數五十盖數備 有九盖数始於一而四十有九数之所宗者一也〇蔡 四數之餘也拉數於左手中以 西山田五歲再閏者一變之中自有五節掛為一節拱 也間積月之 おいれる大

作中含老七石生之至三思思,傳事相,如力を 再始世兄至死死方先公母 すなな人るみは化しまし 羽金岩さる五野 左為二節歸左奇於抄為三節撰右為四節歸右奇於 二不言拱四獨言掛一者明第二變不可不掛也 扐為五節|節象| 歲三節|歸奇象三歲| 閏五節 日為一月更餘六日又二歲餘二十四日合前所餘六 再歸奇象五歲再閏天地之數三百六十每歲氣盈六 餘之眷合而為一為第二變再分再掛再拱也不言分 日為三十日為再閏再扐而後掛者再扐之後復以所 日朔虚六日一歲餘十二日三歲餘三十六日以三十

ものなかいのかのうろん るなだける女が双京二 かくからようなクロタボー 月乳六人思世内四次四 るかでまさるるるな 多耳式了差数又仍から おとはいたあるったとう この中文の心心とき切る 一大一天 美子市一家和る とのすりとうどのならし はんれるまではるかる あまからを女をれないる これなわせるとり代教了 在考益あるみを実立 おんなるろんだしなんと しばまらりを掛からかれ 生うる大化ながえゆうる あるといるや 三十二是為居二之少陰二偶一奇則七而其排亦七 本義凡此策数生於四象盖河圖四面太陽居一而連 六拱着之法則通計三變之餘去其初掛之一凡內為 奇凡八為偶奇圓園三偶方園四三用其全四用其半 亦六策亦四六二十四是為居四之老陰是其變化往 居一之太陽餘二竒一偶則八而其牒亦八策亦四八 會盖餘三奇則九而其拱亦九策亦四九三十六是為 策亦四七二十八是為居三之少陽三偶則六而其拱 積而数之則為六七八九而第三變拱数策数亦皆行 九少陰居二而連八少陽居三而連七太陰居四而連

一篇之策萬有一千五百二十當萬物之數也 來進退離合之妙皆出自然非人之所能為也少陰 本義二篇謂上下經凡防爻百九十二得六千九百 百六十五日四分日之一此特舉成數而緊言之耳 十二策除爻百九十二每爻各四六二十四積之得四 十二策陰爻百九十二得四千六百八策合之得此數 百九十二每爻各四九三十六策積之得六千九百一 計乾坤六爻之策數餘可推而知也期周一歲也凡三 而未極乎虚少陽進而未極乎盈故此獨以老陽老陰 C 俞琰氏臼上下經六十四卦凡三百八十四爻陽爻

世任老人名里里比以成 的水多岩 王作作此奏教

第五段以前科子易一及之一 李章章章是 是故四答而成易 引き上げした 以分二掛一 按四替惟童溪王氏之說是故俞琰氏取之而謂正義 以四度經營養策乃成易之一變者誤先儒皆祖其說 之數者萬盖盈數也取其盈數言之而不論其餘也 曰營求也用著之法以四而禁之成易之數以四而求 千六百八策合之則萬有一千五百二十而日當萬物 一樣四歸奇為四營非也〇今按王氏之說

問易傳義補疑人九卷

策二十有八少陰數八四而求之則其策三十有二陰

ーニーバ

四而求之則其策二十有四少陽數七四而求之則其

之故老陽數九四而求之則其策三十有六老陰數六

得之此易之書所以成於四管也取此以備本義之所 其數一千一 百五十有二總而言之二千八百八十 亦四而求之則三百有六十而二篇之策陽爻一 陽老少六爻之本也故曰四替而成易若夫乾坤之策 十有二其數一千七百二十有八陰爻一百九十有二 **十有四以乾之五十有四合坤之三十有六爲九十爲** 四而求之則萬有一千五百二十也凡此皆求以四而 而求之故乾陽爻六六九五十有四四而求之則二 三百有六十而二篇之策萬有一千五百二十亦以四 十有六坤陰爻六六六三十有六四而求之則下

百九

てでしかる年後と、 日刊での方世を成前を上入上大下一 安京之后路底八計而小成引而伸之觸類而長之天下之能事果矣を放好了 少な五段内科方不当に ばか大成の「丁四卦こまた もたるかから花とり 和陽片のなって、云や大田 全大四营一百日二百五六 十有八變而成計 而伸之者外卦又成於上則為六畫之卦六十四也觸 俞琰氏曰八卦乃三畫之卦小成謂內卦成於下也引 類而長之者八卦可伸而為六十四卦則六十四卦可 之主也養者は不起をおかりを問めてでしると美のいるがすたででるちて人なけの日之主 り引中紀初ある武都とはよしたがる事人がみる政ででしたとう 又九變則成三畫之卦于外凡十有八變而後成六畫 俞琰氏曰十有八變者每一 度分掛拱切為一變三度 未发 分掛拱抄為三變則成一爻九變則成三畫之卦于内

出かれるなるがな おいるのないかんかんかん それののいのなるゆうちな 用此是年本人多文 がきを四て道をあるかり ちな耐かる在砂刀外かり なおなりとだかかろらし 飲食を明然るるにの今上 しいられしりるではり星度 四年成一年第二日 題道神德行足故可與酬酢可與佑神美城者是在五十年至人我 かける 変えたかる 化佐沙州西于北美的好之 あったの己数也しの学品 竹尾越之后 巴丁克太 数色下云子 考修如用~的 ていばるの云れ、主地町 本義道因解願行以數神酬能謂應對佑神謂助神化 朱子德行以人事言惟决之於鬼神則德行神矣又曰 至易亦可測也神之者數也神而莫測則顯者微矣是 辭也顯而可見則幽者聞矣是謂顯道易之德行至簡 之功〇俞琰氏曰易之道變化無窮未易見也題之者 則天下所能之事畢夫的伊西南當及於有名的司伊山村之最 謂神德行道之顯故可與酬酢德行之神故可與佑神 伸而為四千九十六卦也用四千九十六卦以断古山 神不能自說吉凶必俟易始見是易能佑助於神也

中日日日在日本大学于日却變化之道者其知神之所為手 ドアオルろう 外ストで出るからあ で小の生べるなべて るがのかしかるスマンと の対話人が送れ上 まる田本のまれてか! 後ろろ おしめるられが 大方子と あれていて さかえかみてけるから でがむらかしろうえし 沙 りりを有を一とえ 即下文至神之事〇雙湖胡氏曰變化之道即成變化 文所言者數之法變化往來進退分合此乃耐之所為 所為則可以因變化之道而知之何謂神之所為如上 而陽者變也自陽而陰者化也所以變化而無窮者道 有化非人之所為也皆神之所為也の俞琰氏曰自陰 本義變化之道即上文數法是也皆非人之所能為〇 也心節齊察氏曰變化之道即下文至精至變之事神 也神者何陰陽不測之謂也神豈可以遽知若去神之 雲峰胡氏曰盖謂河圖大行之數拱着水卦之法有變 1 L

きが大きれてるなん 明双州四大多才格了他上 るかろ 母のてあるこ 生みでおるあし行えて 芸で大あいるである 次母等 深上数由语名 全 老力大あってではあるかか なんときかいいるのあと 用男を大きは突まれるり 石を子科を見ればせから 大水的七一件五次十二 四月主子芳 母女 母をかし おおおおれてしなれんこ 知所謂定天下之吉凶成天下之亹亹是也 意其詳具於太上差人之官而今不可考耳其可推着 本義此章言天地大行之數撰著求卦之法然亦略矣 所為即行鬼神之事對畫既立吉必禍福皆可得而前 之事拱着中老陽變為少陰老陰變為少陽是也神之 啓蒙備言之〇葉良珮曰此言天地陰陽之數具於河 圖而聖人因之立著明易以成變化而行鬼神也防之 數可故河圖一三五七九之數皆屬乎天所謂天數五 也陰之數偶故河圖二四六八十之數皆屬乎地所謂 右第九章

修了我有更奏不知了於 益なる芸を下で 及在于人名古英国 用用ないてな田田は著名 れのないは水中るカラド 次良多心のおかり込み風 どろべててしまれらない おうまくなるでしまる大仏 である以れた方の水 日本品の過まて日程を マナルにったのたちなる からうむなとまるです 下しま込みなべしをとします 福作ういうなかせるとつ 一人人人 在我一大人 之是謂四當而成易也範之策二百一十有本積六文 之積也天地之数五十有五以成變化行鬼神如下文 象四時歸命以象再聞凡陰陽老少之数皆以四而求 者也天数二十有五者五奇之精也地數三十者五偶 之策各三十六而得之也地也策可四十有四積不必 也可以家太极分二以象两侯掛一以象三才拱四以 門大行之數五十者以河圖中官天五乗地十而得之 用为行之数以成六十四卦而吉的悔各由之以生是 相得也各有合者謂五行皆以生成之數而各有合馬 地數五也五位相得謂一奇一偶各以次序為類而自 多个九

でえてかしまかる

六管九變以成三畫則外卦之為悔者亦備而六十四 見則內卦这為貞者立矣自是而往引而伸之又三十 長馬則天下之事其古凶悔各皆不越乎此矣顯道神 成而言也盖四變而成變易三變而成一爻謂之兩儀 七有老百四十有四而得之也當期之日者每月三十 他行者道在天幽而難知今因卦辞明言其言凶而顧 日合十二月為三百六十也引伸觸類者此由八卦小 卦之名又可見矣然後親其及之變與不變而觸類以 之畫積三十六替而九變也已得三畫而八卦之名可 之策各二十有四而得之也凡三万六十者合二百

鬼神也顧變化之道知之者解故夫子嘆之云云盖必 失赦回顧道他行在人類而易見今必占块於著策之 由數法以知其物必神明其德行以知其故然後可與 數以神之故曰神徳行惟顯道故可與酬酢惟神徳行 語知耳故能知其道則能知神之所爲而與之同其无 故可與助神然酬酢即所以助神皆所謂成變化而行 万矣故至誠如神此之謂也 伊馬拉提門小小

